エゾシカライトセンサス調査の概要

１　調査内容と目的

日没後に低速走行の車から、スポットライトを照らしてエゾシカの数をカウントします。

この調査は、エゾシカの適正な保護管理を進めていくための基礎的資料として必要不可欠な生息動向を道内の地域（ユニット）別に把握することを目的としています。

２　これまでの調査実績

1992年（平成４年）に、道東４支庁の全ての市町村を対象に調査が開始されて以降、徐々に調査対象地域を拡大し2006年（平成18年）は全道134市町村で調査を実施しました。

３　調査実施時期

調査は、毎年10月中旬から11月上旬にかけて実施しています。

４　調査方法

（１）調査体制

運転手、観察者、記録者等が車に乗り込み実施します。

（２）調査ルート

調査対象市町村ごとに、エゾシカが頻繁に出没する農耕地（牧草地を含む）や森林にそれぞれ約１０㎞の調査ルートを設定し、原則として毎年同じルートで調査を実施しています。

（３）調査日数

調査は、調査期間内において、広域調査対象市町村では１日間、モデル調査対象町では同じ調査ルートで３日間連続して実施します。

なお、強風や強い雨、霧等の観察条件が悪い日には調査を行いません。

（４）調査時間

調査は、日没後４時間以内に実施しています。

（５）調査の手順

１　調査を開始する前に、あらかじめの縮尺５万分の１の地形図に開始地点、調査ルート、終了地点を記入した調査ルート地図を用意します。

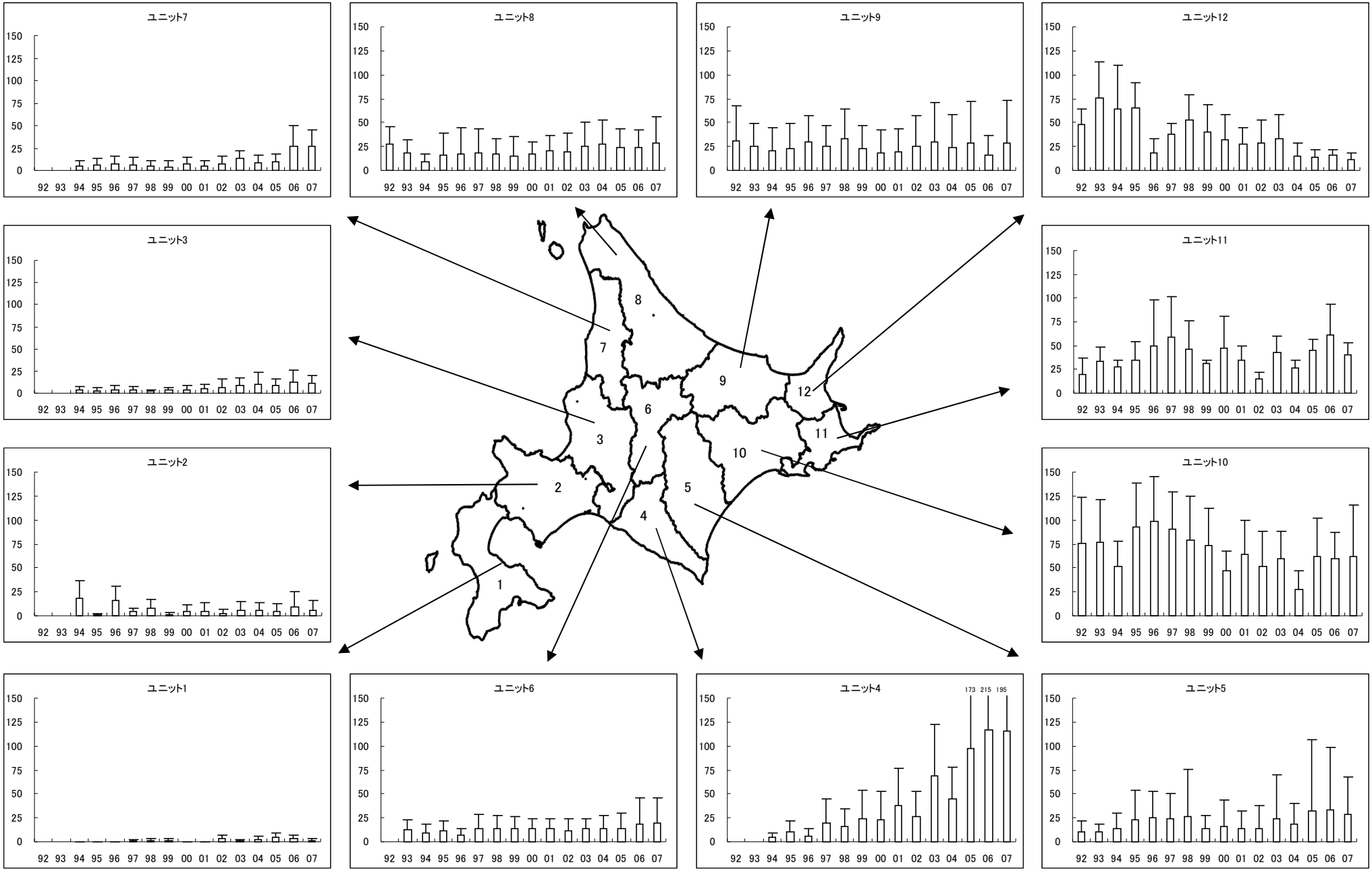
２　ルートに沿って車両を時速１０～２０㎞で走行させながら、スポットライトにより両側を照射し、エゾシカを確認した場合は、確認時の走行距離、時刻、年齢とオスメスの区分別の観察頭数などを調査票に記入します。

５　結果のまとめ

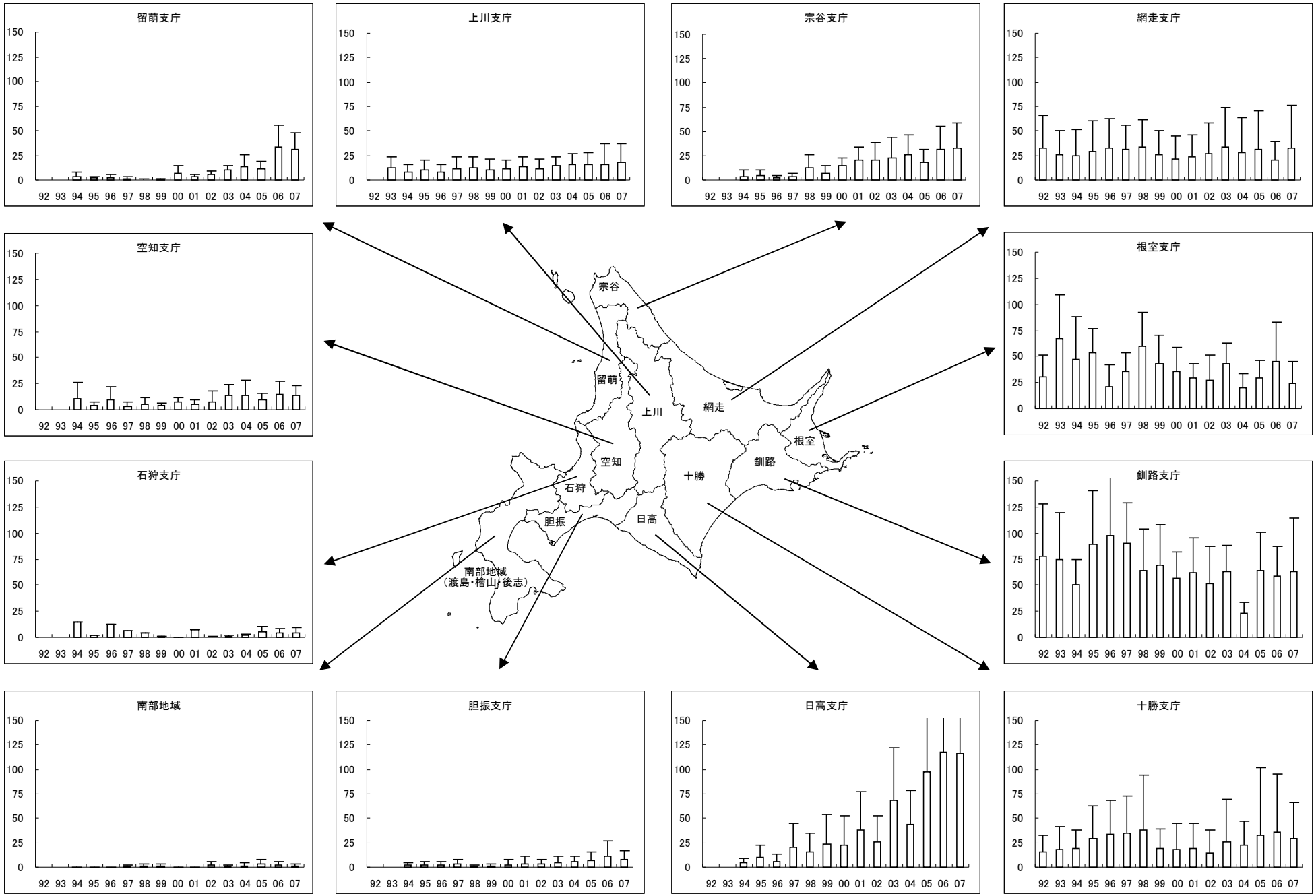
全道を12のユニット（エゾシカの分布と行政単位を考慮した保護管理の対象区分）に分割して、ユニット別に生息動向を分析しました。エゾシカ保護管理計画に基づく東部地域のエゾシカの生息動向の指標の一つであるユニット10(十勝東部及び釧路)の中央値は、ピークとなった1996年以降は減少傾向が続き、2004年には目標水準の25を下回りましたが、2005年には再び増加しています。

2006年の調査結果も考慮に入れると、東部地域の近年の個体数水準は下げ止まりのままの横ばいもしくは増加傾向にあるものと考えられます。

日高を除く西部地域（ユニット１～３及び６～８）の近年のエゾシカ個体数水準は、横ばいもしくは緩やかな増加傾向にあると考えられますが、日高地方（ユニット４）では急激な増加傾向が継続しており、最近の個体数水準は全道で最も高い可能性もあります。十勝西部（ユニット５）及び網走西部（ユニット９）は横ばい傾向にあり減少の兆しは見られません。



各ユニットの平均観察頭数/10km（農耕地コース）の推移。棒グラフの誤差棒は標準偏差を表す。



各支庁の平均観察頭数/10km（農耕地コース）の推移。棒グラフの誤差棒は標準偏差を表す。